

平成11年10月18日

職員の綱紀の保持について

院長 石原直毅

昨今の宝島の出版社に対する当院の対応については、市長ならびに私からも議会および職員に対し見解を明らかにしているところであります。また、院内においてはこれを機会に組織の管理運営をもう一度見直し、市民のみならず職員の付託に応えられる病院作りに努めていかなくてはならないと考えております。

さらに、私達は病院の理念である「患者中心の医療」、そして職員宣誓にある「患者さんとの相互信頼に基づいた医療」をもう一度再認識し、日常診療、看護に誠意をもって当ることにより市民、患者さんに対する不安を払拭することが急務だと考えます。

今回の記事の内容は全く根拠のないもの、あるいは医療上不可欠な検査や処置の合併症までも医療ミスと故意にねじ曲げ、事実と反する事柄や、それらを針小棒大あるいは中傷を目的としておもしろおかしく書かれており怒りを禁じ得ません。

しかし他方では、どのようにして病院の医療の内容に関することまでが記事となったか理解に苦しむところであります。

職員の間で医療従事者としてあるいは公務員としての守るべきルール、特に、守秘義務についてをもう一度認識を新たにすべきであると考えます。

日々の私達のなにげない言動の中で例え他意がなくても、場合によってはそれが患者さんやその家族に不安や疑念を抱かせ、職員の積み上げてきた努力を無にし、また病院の信頼を揺るがす結果に繋がる事にもなり、誠に慎むべきものであります。

私達は医療という互いに目標を共有する職員としてこのような事態はなんとしても避けなければならないと思います。

今一度、医療人としての責任の重さを再認識し、病院の理念の達成を目指して職員が一致団結することを切にお願いいたします。